

次世代型交通ターミナルの実現に向けて

～国道15号・品川駅西口駅前広場事業計画「中間とりまとめ」～

国土交通省 関東地方整備局 東京国道事務所

1. はじめに

品川駅周辺地域は、羽田空港の更なる国際化や平成39年開業を目指すリニア中央新幹線、平成32年に暫定開業を目指す品川新駅（仮称）など、地域のポテンシャルが高まっています。また、平成24年1月の特定都市再生緊急整備地域の指定や、平成28年4月の国家戦略特別区域の区域計画の認定などにより、民間活力をいかした開発が一層進んでいくことが見込まれています。まちづくりについては、東京都、国、学識経験者、関係区及び民間事業者で構成される「品川駅周辺基盤整備・まちづくり検討委員会」での検討を踏まえ、平成26年9月、東京都が公民協働のまちづくりの指針となる「品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン2014」を策定しています。

以上の背景から、「これからの日本の成長を牽引する国際交流拠点・品川」の実現に向けまちづくりの計画段階から官民連携で検討を行っているところであり、平成29年2月には、道路上空を活用した未来型の駅前空間に関する整備方針をとりまとめ、その後、有識者や民間事業協力者（京急電鉄・西武プロパティーズ・JR東日本）と共に、国道15号・品川駅西口駅前広場の整備方針を踏まえた事業を展開するため、事業計画の検討を進めてきたところです。

今般、次世代型交通ターミナルの整備を含む事業計画の「中間とりまとめ」を策定・公表いたしました。

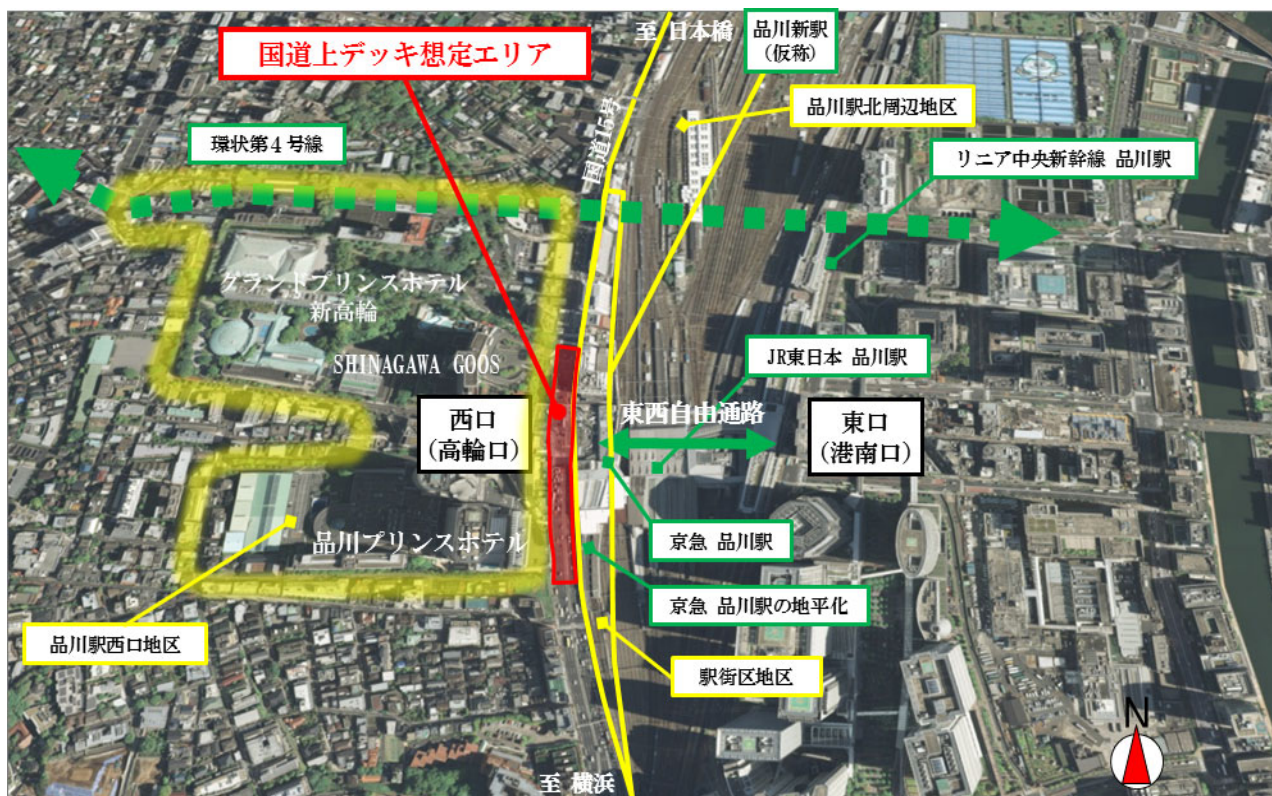


図 品川駅周辺位置図



図 国道15号・品川駅西口駅前広場の整備方針（抜粋）

2. 品川駅西口駅前の現状と課題

国内外からの来訪者増加が期待される品川駅においては、都市基盤整備が先行している東口（港南口）に比べ、西口駅前には狭小な駅前広場・歩行空間に多くの自動車交通や歩行者、公共交通が慢性的に集中しており、快適な空間となっていないだけでなく、交通安全性にも課題があります。

(1) 駅前での交通の輻輳

国道15号を横断する歩行者は極めて多く、品川駅前横断歩道では18時台のピークでは約8千人/hの歩行者があるものの、十分な滞留空間がないため歩道空間に溢れかえり、歩道を通行する人や自転車、バス停利用者の動線と交錯するなど、危険な状態にあります。



(2) 荷捌き交通

販売店等の荷捌き車両の駐車が多く（1日あたり350台以上が利用）、駅前広場としての交通結節機能の低下が発生しています。一般車やタクシーも混在し、駅前広場内が慢性的に混雑している状況であり、駅街区の新設駅ビルに伴う需要増加も考慮すると早急な対応が求められます。



(3) 客待ちタクシー

現状のタクシー用待機スペースは10台程度と慢性的に不足しており、国道15号の走行車線にタクシーが待機するなど、国道の交通容量を低下させている状況にあります。また、国道15号路上での乗降も頻繁に行われるなど、利用者にとっても不便な状況です。



(4) 路線バス

現状の駅前広場は狭く、バスの滞留空間がないため国道15号の路上にバス乗降場が設置されています。そのため、バス利用者と歩行者が錯綜し、歩行空間を圧迫しています。また、一部は起終点となっているバス路線もあるため、駐車しながら時間調整をしている状況です。



(5) バリアフリー化されていない歩道橋

国道15号を横断する歩道橋は幅員が狭く、かつエレベーターも設置されていないため、車いす利用者や高齢者等にとって使いにくい状況にあり、バリアフリーへの対応が求められます。



3. 事業計画「中間とりまとめ」の策定

平成29年2月にとりまとめた「国道15号・品川駅西口駅前広場の整備方針」に基づき、有識者や平成29年9月に選定した民間事業協力者（京急電鉄、西武プロパティーズ、JR東日本）等と共に、官民連携で事業計画策定に向けた検討を行ってきたところであり、今般、次世代型交通ターミナルの整備を含む事業計画の「中間とりまとめ」を策定しました。

(1) 国道15号・品川駅西口駅前広場の将来の姿

品川駅周辺地域においては、新たな国際交流拠点の形成に向けて、道、駅、まちが一体となった、都市基盤の整備を進めることとしており、国道15号の道路上空を活用し、最先端のモビリティ（自動運転等）の乗降場を集約した、次世代型モビリティターミナルや、賑わい広場を整備し、日本の顔となる「世界の人々が集い交わる 未来型の駅前空間」を目指します。

◆次世代型交通ターミナル◆

- 最先端のモビリティ（自動運転等）の乗降場を集約した次世代モビリティターミナルを配置

◆シンボリックなセンターコア◆

- 利用者動線の交差部には連携の拠点となるセンターコアを配置
- 交通結節の各空間を結ぶシンボリックな空間を形成

◆開発計画と連携した複合（交通・防災）ターミナル◆

- 民間の開発計画と連携し、交通と防災を融合させた複合ターミナルを配置
- タクシー、ツアー系高速バス、次世代モビリティ等の乗り換えを可能に

◆人々が集う賑わい広場◆

- センターコアの南側には、人々が集い、憩う賑わい広場空間を配置
- 有事の際には、防災拠点としても活用

至 日本橋
3丁目 新規開発ビル
次世代型交通ターミナル
センターコア
賑わい広場
商業施設
複合ターミナル
国道15号 至 横浜
J.R.京急品川駅 (北側)
J.R.京急品川駅 (南側)

写真:トヨタ自動車・e-palette
写真:バスタ新宿
写真:H28熊本地震/救援物資の保管状況 (出典:一財)消防防災科学センター ホームページ <http://www.isad.or.jp>
写真:東日本大震災時の対応 (出典:航空自衛隊ホームページ <http://www.mod.go.jp/asdf/ohitakine/saigai/index2.html>を加工して作成)

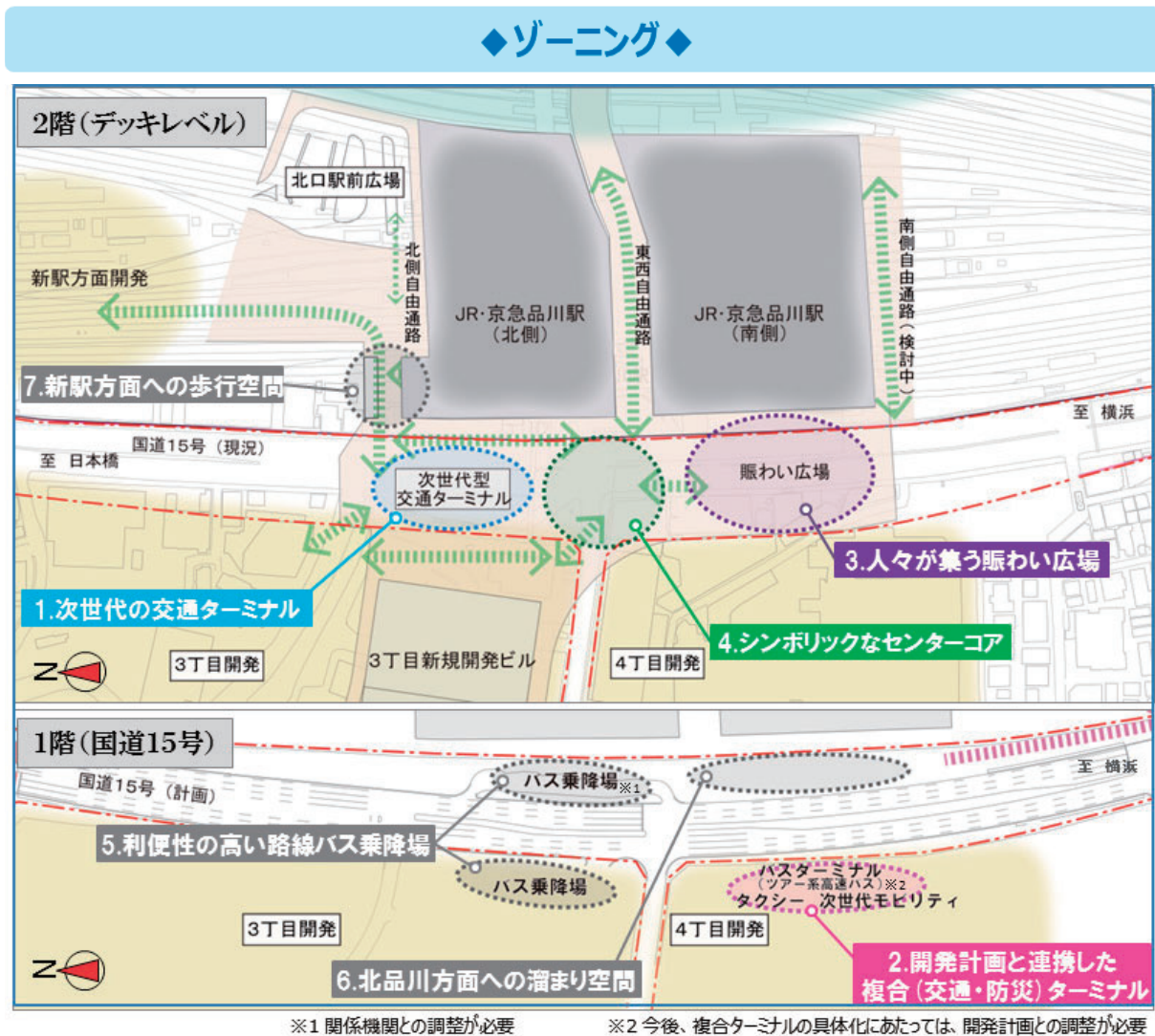
写真:ユニバーセンターベルリン (ドイツ・ベルリン)
写真:ツァイル通り (ドイツ・フランクフルト)
写真:ショッピングモール (ルーマニア・ブカレスト)
賑わい空間のイメージ

図 横浜側から見た品川駅西口駅前広場の機能のイメージ

※将来必要となる機能をイメージしたものであり、整備内容を決定したものではありません

(2) 国道15号・品川駅西口駅前広場整備のゾーニングの考え方

国際交流拠点、未来型の交通拠点として、新しい「日本の顔」となる象徴的な都市空間をカタチにするため、次の7つのコンセプトを持つゾーンに分けて事業の具体化を検討してまいります。



◆コンセプト◆

1. 次世代の交通ターミナル

- ・常に最先端のモビリティへ接続が可能な、次世代型交通ターミナルを配置

2. 開発計画と連携した複合（交通・防災）ターミナル

- ・民間の開発計画と連携し、交通と防災を融合させた複合ターミナルを配置
- ・タクシー、ツアー系高速バス、次世代モビリティ等の乗り換えを可能に

3. 人々が集う賑わい広場

- ・センターコアの南側には人々が集い、憩う賑わい広場空間、3～4層（想定）の商業施設を配置
- ・防災拠点としても活用

4. シンボリックなセンターコア

- ・利用者動線の交差点には連携の拠点となるセンターコアを配置
- ・交通結節の各空間を結ぶシンボリックな空間を形成

5. 利便性の高い路線バス乗降場

- ・分りやすさ、運行効率に配慮し国道15号を挟み対になるようバス停を配置

6. 北品川方面への溜まり空間

- ・周辺地域資源へアクセスする玄関口として機能する溜まり空間を配置

7. 新駅方面への歩行空間

- ・新駅方面への人・モビリティの往来が可能となるよう十分な通行空間を確保

(3) 道路上空の空間活用の考え方

限られた空間を立体的に活用することで、便利で賑わいのある駅前空間を実現します。

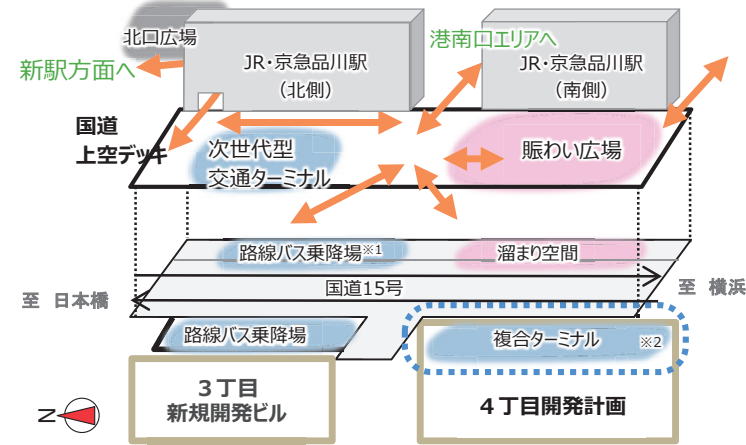
○国道15号上空を立体的に活用し、交通機能、賑わい機能を配置します。

➤北側デッキ部に次世代型交通ターミナルを配置

➤南側デッキ部に賑わい広場、開発ビルと一体となった3～4層（想定）の商業施設を配置

○4丁目開発地にタクシー、ツアー系高速バス、次世代モビリティ等を収容する複合ターミナルを、開発と連携し配置します。

■ 交通機能の配置の考え方



※1 関係機関との調整が必要

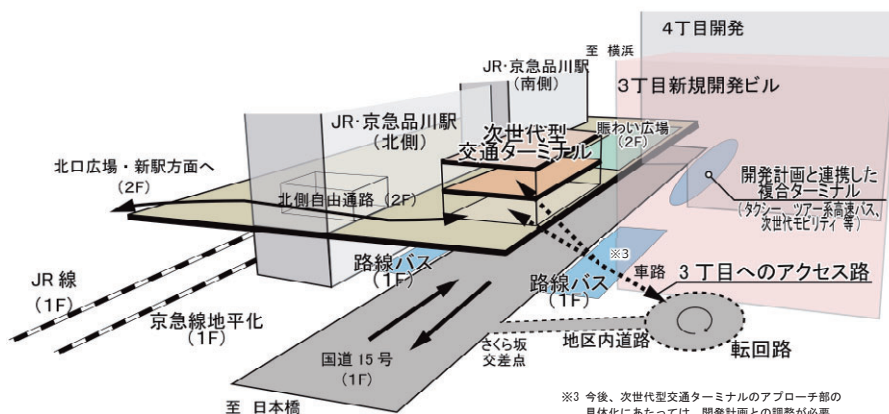
※2 今後、複合ターミナルの具体化にあたっては、開発計画との調整が必要

(4) 次世代型交通ターミナルと周辺とのネットワーク

品川駅と品川新駅（仮称）、周辺地域に、次世代モビリティを使ったネットワークを形成します。

○デッキ上は次世代モビリティと歩行者が共存する新たな移動空間として、世界に先駆け自動運転技術の導入等を図り、歩行者への安全性を確保します。

■ 各交通施設の配置イメージ



※3 今後、次世代型交通ターミナルのアプローチ部の具体化にあたっては、開発計画との調整が必要

○次世代型交通ターミナルを中心に、周辺地区内にポートを適切に配置することで利用者の利便性向上を図ります。

○また、次世代モビリティの沿道施設へのアクセスを可能とし、シームレスな移動空間の実現を目指

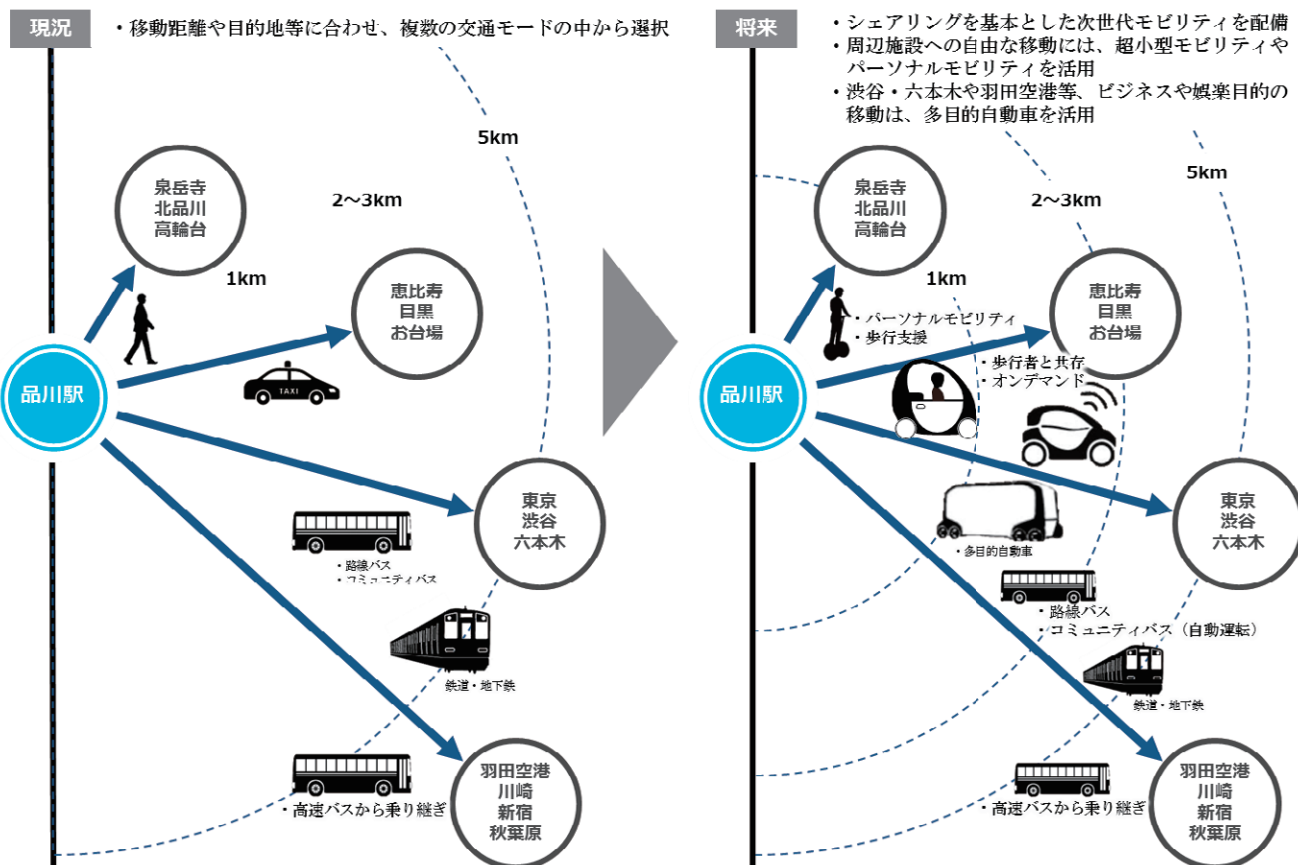
すとともに、将来的には、デッキ上等の活用による次世代モビリティを使ったネットワークの形成を目指します。

■ 次世代型モビリティの活用イメージ



(5) 次世代型交通ターミナルの生み出す空間

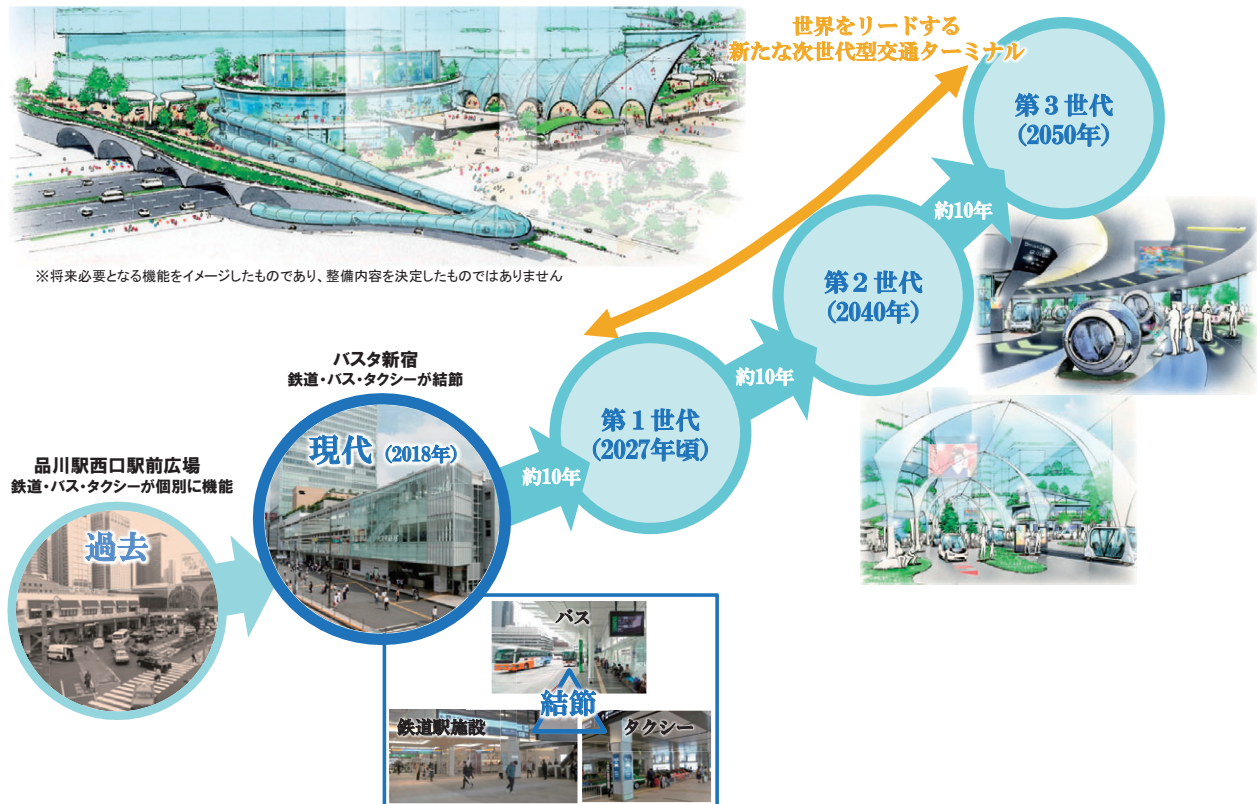
既存のモビリティを次世代モビリティで補完し・代替することで、より利便性の高い移動空間を実現します。



(6) 常に時代最先端のシステムへ進化する次世代型交通ターミナル

常に最先端の車両・技術・システムが体感できる、次世代型交通ターミナルを目指します。

- 「道路の施設」は、これまでも時代のニーズに合わせて進化してきました。
- 品川駅周辺施設も今後、社会的ニーズの変化や技術開発の動向に合わせて進化することを目指します。
- 世界に向けた情報を発信し続ける品川、新しい東京のカタチを創造し続けます。



4. おわりに

羽田空港の国際化やリニア中央新幹線の整備等、今後益々ポテンシャルが高まる品川周辺地域において、今回のプロジェクトは極めて重要な位置づけにあります。整備方針に掲げた「世界の人々が集い交わる未来型の駅前空間」の実現に向けては、民間からのアイデアやノウハウの活用が不可欠になります。

今後は、事業計画の深化を図るため検討会を設立し、産学官連携の下で、今年度内のとりまとめに向けて検討を進めてまいります。